

みねおか「竹のワークショップ」開催 8月8日(土) みねおかいきいき館第2研修棟

新型コロナ感染流行と連日の高温警報の中で、竹の使ったワークショップが開催されました。

当日は、感染防止と熱中症防止の観点から地元の子ども達と家族を対象に南房総市観光協会・千葉工大・NPOトージバ、そして嶺南地区子ども会育成会の事務局支部の協賛で開催されました。

いきいき館のスタッフによる「水鉄砲」、トージバの竹のパカパカ作り等孟宗・真竹・淡竹・篠竹等の特徴を活かしたワークショップでした。

同じ里山運動をされている安馬谷の横山さんも「手作りの竹製品」の展示、打楽器奏者の奈良さん親子による「竹のスリットドラムづくり」と合奏もありました。

今回は親子16名を含む30名規模で、「三密防止」で実施しました。千葉工大の通信システムを活用したリモート交流もできました。

竹の可能性を示すイベント企画で、特に大井地区の竹を利用した「竹あかり」は千倉の高家神社でも昨年から利用されており、新しいシンボルとして人気となっています。竹に穴をあけて光を通すというシンプルなものですが、無限の可能性を持っています。穴のサイズ変更と図柄で自分だけの竹あかりは玄関にピッタリです。



大井里山保全協議会は、地元にある竹資源を単なる伐採から「無限の可能性をもった資源」として活用する一歩を踏み出しました。

↑
リモート参加中

添付は8月11日の房日新聞の報道です。

竹でおもちゃづくり

8/11 南房総親子16人が楽しむ

竹でおもちゃや楽器をつくる「みねおかのワークショップ」が8日、南房総市大井の「みねおかいきき性」を考え、確認しよう



竹灯笼をつくる参加者ら＝南房総

鉄砲からつくりたいものを選び、スタッフの指導で思い思いの作品を製作した。最後に、スリットドラムの指導に当たった館山市在住のミュージシャン、奈良大介さんのジェンベに合わせて、自分でつくったスリットドラムでリズムを奏で、ワークショップを終了した。

同館事務長の芳賀裕さん(68)。三橋稜君(4)は「竹を切るのが楽しかった」と自作の竹ぼっくりに乗りながら話した。伊菅榛乃さん(4)は、リモート参加の学生との会話を楽しみ「(画面から)消えたのが面白かった」と笑顔を見せた。

同館が共催、千葉工業大学、NPO法人トージバが協力が。参加者は、竹ぼっくりや竹灯笼、スリットドラム、水

初めの試みに「次につながるようなワークショップにしたい」と